

スタイルシートの基礎

0 . 目次

1 . スタイルシートの書き方

1 . 1 head要素内にstyle要素を記述して指定する方法

1 . 2 要素内にstyle属性を記述して指定する方法

1 . 3 CSSファイルに指定する方法

2 . セレクタ

1. スタイルシートの書き方

従来、HTMLで文書の構造(段落、箇条書き、中央寄せなど)と見栄え(文字の色、形、大きさ、背景色など)を指定していた。最近、見栄えのみを扱うスタイルシートを記述するスタイルシート言語CSS(Cascading Style Sheet)が開発され、文書の構造とWebページの見栄えを個別に扱えるようになった。

プロパティ宣言(プロパティ:値)で見栄えを指定する。複数のプロパティ宣言を記述するときは、「;」で区切る。

セレクタで、見栄えの適用範囲を指定する。簡単なセレクタは、要素名を使う。

セレクタ{プロパティ:値}

セレクタ{プロパティ:値; ... ; プロパティ:値}

プロパティ	意味						
background-color	背景色を指定する。 <table border="1" data-bbox="584 902 1227 1016"> <thead> <tr> <th>値</th> <th>意味</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>色名</td> <td>black, white, red, blue等。</td> </tr> <tr> <td>#数値</td> <td>数値は、6桁の16進数。</td> </tr> </tbody> </table>	値	意味	色名	black, white, red, blue等。	#数値	数値は、6桁の16進数。
値	意味						
色名	black, white, red, blue等。						
#数値	数値は、6桁の16進数。						
color	文字の色を指定する。						

- ・ 開始タグと終了タグで囲まれた全体を要素という。
 たとえば、`<h1>...</h1>`は、h1要素と呼ばれる。
- ・ スタイルシートでは、要素ごとに見栄えを指定する。

スタイルを定義する方法として、3通りある。

- (1) head要素内にstyle要素を記述して指定する方法
- (2) 要素内にstyle属性を記述して指定する方法
- (3) CSSファイルに指定する方法

CSSを使う場合、HTMLファイル内にmeta要素を次のように記述しておく。

```
<meta http-equiv="Content-Style-Type" content="text/css">
```

1.1 head要素内にstyle要素を記述して指定する方法

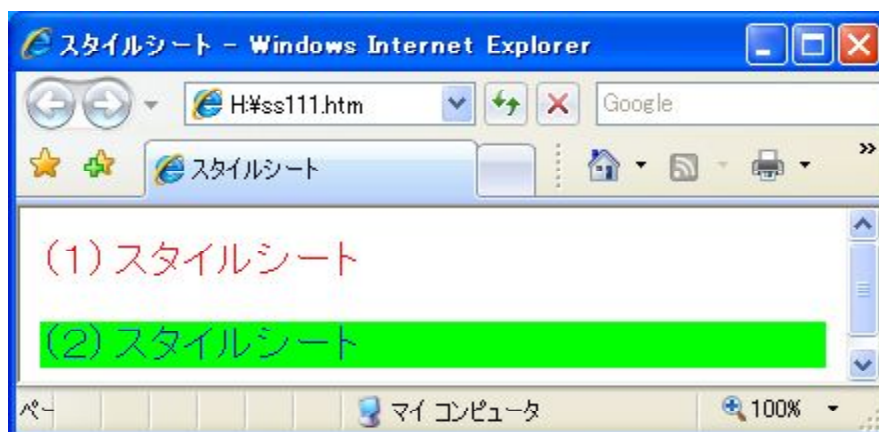
スタイルの定義を、head要素内に、style要素を記述して指定する。

```
<head>
  <meta http-equiv="Content-Style-Type" content="text/css">
  <style type="text/css">
    スタイルの指定
  </style>
</head>
```

要素	意味						
style	スタイルシートを組み込む。						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>属性名</th> <th>値</th> <th>意味</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>type</td> <td>名前</td> <td>スタイルシート言語のMIMEタイプを指定。 CSSのMIMEタイプは、text/css。</td> </tr> </tbody> </table>	属性名	値	意味	type	名前	スタイルシート言語のMIMEタイプを指定。 CSSのMIMEタイプは、text/css。
属性名	値	意味					
type	名前	スタイルシート言語のMIMEタイプを指定。 CSSのMIMEタイプは、text/css。					

```
1 <!-- ss111.htm -->
2 <html lang="ja">
3 <head>
4   <title>スタイルシート</title>
5   <meta http-equiv="Content-Style-Type" content="text/css">
6   <style type="text/css">
7     body{ background-color:white; color:red; }
8     p{ background-color:lime; color:blue; }
9   </style>
10 </head>
11 <body>
12   ( 1 ) スタイルシート<br>
13   <p> ( 2 ) スタイルシート</p>
14 </body>
15 </html>
```

- ・CSSに対応していないWebブラウザはstyle要素の内容をそのまま表示する。これを避けるには、スタイルの指定を「<!--」と「-->」で囲む。



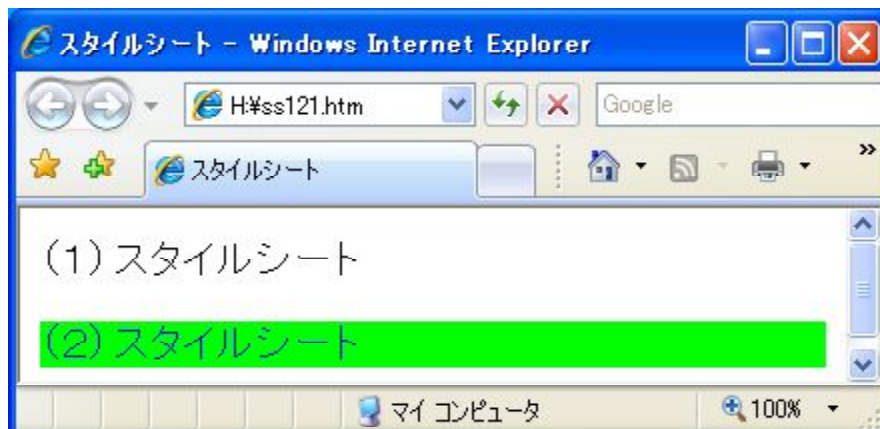
1.2 要素内にstyle属性を記述して指定する方法

要素内にstyle属性を記述して指定する。style属性は、ほとんどの要素で使える。また、meta要素でスタイルシートとしてCSSを使うことを指定しておく。

```
<要素名 style="スタイルの指定">
```

ページ内の特定の要素にスタイルを指定するときに便利である。

```
1 <!-- ss121.htm -->
2 <html lang="ja">
3 <head>
4   <title>スタイルシート</title>
5   <meta http-equiv="Content-Style-Type" content="text/css">
6 </head>
7 <body>
8   ( 1 ) スタイルシート<br>
9   <p style="background-color:lime; color:blue">
10  ( 2 ) スタイルシート
11 </p>
12 </body>
13 </html>
```



1.3 CSSファイルに指定する方法

ファイル(ss131.htm)を作成する。

```

1 <!-- ss131.htm -->
2 <html lang="ja">
3 <head>
4   <title>スタイルシート</title>
5 </head>
6 <body>
7   ( 1 ) スタイルシート<br>
8   <p> ( 2 ) スタイルシート</p>
9 </body>
10 </html>

```

スタイルを記述しているファイル(ss131.css)を作成する。
 ファイル(ss131.htm)と同じディレクトリに保存する。

```

1 /* ss131.css */
2 body{ background-color:white; color:red; }
3 p{ background-color:lime; color:blue; }

```

・「/*」と「*/」で囲まれた範囲は注釈となる。

ファイル(ss131.htm)のhead要素にmeta要素とlink要素を追加する。

要素	意味												
link	この文書と別の文書との関係を指定する。												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>属性名</th> <th>値</th> <th>意味</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>rel</td> <td>リンク タイプ</td> <td>href属性で指定する文書が何であることを指定。</td> </tr> <tr> <td>href</td> <td>URL</td> <td>この文書と関連する文書のURLを指定。</td> </tr> <tr> <td>type</td> <td>MIME タイプ</td> <td>href属性で指定した文書のMIMEタイプを指定。</td> </tr> </tbody> </table> <p>MIMEタイプ : text/html, text/css, text/javascript など。 リンクタイプ : stylesheet はスタイルシートを意味する。</p>	属性名	値	意味	rel	リンク タイプ	href属性で指定する文書が何であることを指定。	href	URL	この文書と関連する文書のURLを指定。	type	MIME タイプ	href属性で指定した文書のMIMEタイプを指定。
属性名	値	意味											
rel	リンク タイプ	href属性で指定する文書が何であることを指定。											
href	URL	この文書と関連する文書のURLを指定。											
type	MIME タイプ	href属性で指定した文書のMIMEタイプを指定。											

```

1 <!-- ss131.htm -->
2 <html lang="ja">
3 <head>
4   <title>スタイルシート</title>
5   <meta http-equiv="Content-Style-Type" content="text/css">
6   <link rel="stylesheet" href="ss131.css" type="text/css">
7 </head>
8 <body>
9   ( 1 ) スタイルシート<br>
10  <p> ( 2 ) スタイルシート</p>
11 </body>
12 </html>

```



2 . セレクタ

セレクタで、スタイルを適用する範囲を定義する。スタイルは、「{」と「}」でプロパティ宣言を囲む。プロパティ宣言が複数ある場合は、「;」で区切る。

セレクタの書き方	適用範囲
a{プロパティ宣言}	要素a <code><a> ~ </code>
a b{プロパティ宣言}	要素aに含まれる要素b <code><a> ~ </code>
a,b{プロパティ宣言}	要素aと要素b <code><a> ~ ~ </code>
.c{プロパティ宣言}	クラスcを指定した要素 <code> ~ <b class="c"> ~ </code>
.c{プロパティ宣言} .d{プロパティ宣言}	クラスcとdを指定した要素 <code> ~ <b class="c d"> ~ </code>

- ・ class属性は、ほとんどの要素に対してクラス名を付けることを指定する。スタイルシートのセレクタとして使われる。この機能を使うと、同じ要素に異なるスタイルを適用することができる。

HTMLファイルに記述する方法

```
1 <!-- ss211.htm -->
2 <html lang="ja">
3 <head>
4   <title>スタイルシート</title>
5   <meta http-equiv="Content-Style-Type" content="text/css">
6   <style type="text/css">
7     body{ background-color:silver; color:red; }
8     .block1{ background-color:lime; color:blue }
9     .block2{ background-color:olive; }
10    .block3{ color:black }
11  </style>
12 </head>
13 <body>
14 <p class="block1"> ( 1 ) スタイルシート</p>
15 <p class="block2 block3"> ( 2 ) スタイルシート</p>
16 ( 3 ) スタイルシート
17 </body>
18 </html>
```



CSSファイルに記述する方法

```
1 /* ss212.css */
2 body{ background-color:silver; color:red; }
3 .block1{ background-color:lime; color:blue }
4 .block2{ background-color:olive; }
5 .block3{ color:black }
```

```
1 <!-- ss212.htm -->
2 <html lang="ja">
3 <head>
4   <title>スタイルシート</title>
5   <meta http-equiv="Content-Style-Type" content="text/css">
6   <link rel="stylesheet" href="ss212.css" type="text/css">
7 </head>
8 <body>
9 <p class="block1"> ( 1 ) スタイルシート</p>
10 <p class="block2 block3"> ( 2 ) スタイルシート</p>
11 ( 3 ) スタイルシート
12 </body>
13 </html>
```

